〔基調講演〕

「学力の新しいルール
学校よ，自信とプライドを取り戻せ」

立命館大学教育開発・支援センター教授　陰　山　英　男

皆さん，こんにちは。産業社会学部で教員養成の準備が始まろうかという時であります。私もこの間までは現場にいたわけですが，教員養成の問題というのは日本の教育を考える上で今，本当に重要な仕事になってくると考え現職に移りました。ただ教員養成が重要であることはいつの時代でも言われていることですが，それはそれとしてこの時代になぜ重要なのかということは，実はあまり認識されていません。なぜ重要か，それは今後，団塊の世代の大量離職に伴う大量採用ということで，たくさんの若者たちを教員として採用していかなければならない時代を迎えていることが第一の理由です。

そして新しく教師になる彼らこそ日本の教育改革の第一次世代です。ゆとり教育というのは2002年から３割削減が話題になっていますが，実は最も重大な方向転換が行われたのは92年の指導要領であります。まもなく教員になっていくだろう若者たちはそういう新しい時代の変革期の第一世代なのです。そもそもこの第一の改革がうまくいっていたのならば，みなさんも今日，こんなに日曜の午後，京都の紅葉も見ずに，私などの話を聴くということもないわけであり，それだけ深刻と言いましょうか，重要な段階を迎えているということであります。

ずばり言いましょう。最近，話題になっています高校の必修教科未履修の問題と，中学校のいじめ自殺の問題は別次元の話のように思われていますが，実は同じ根っこを持っています。92年に「新しい学力観」と呼ばれる考え方を中心にした教育改革が行われたわけですが，その直後に山形県で起きましたマットでぐるぐる巻いた中学生が亡くなった事件，翌年には今回のいじめ自殺によく似ていますが，愛知県の大河内清輝君のいじめ自殺というように，続けさまに子どもたちの死が起きました。

ではこのグラフは何か。これは校内暴力の発生件数です。92年の指導要領の改定と同時に，見てください。このような勢いで子どもたちの暴力の数は増えているわけであります。そもそも指導要領というのは10年に１回の改訂となっていますので，このように悪化するということを途中で止めることは難しかったわけです。まさしく私自身が「もうこれはほぼ限界だろう」と思ったのが95年，96年です。そしてこの時期から発言活動を始めるわけですが，2002年の指導要領の改訂にあたっては，この方向性を延長するものであるということがあって「ちょっと待ってくれ」という話になったわけです。

この新しい学力観を端的に言い表すと「個性尊重」という言葉になります。子どもたちの意欲とか考え方を大切にしなければいけないので子どもたちのやりたい勉強をさせようというようなことで，高校の学習内容に選択が多くなってきました。それが大学においては教養部がなくなっていくという流れになって，自分の学びたいものを学ばせる。そうすることによって子どもたちはストレスを感じることがなくなって，不登校も減り，校内暴力もなくなるということだったんです。しかし現実はそれとは全く違う動きを示してきたわけであります。

92年の指導要領の改訂が何を意味していたのか。なぜこういうふうになってきたのか。ここのところをきちんと考えておくことが重要なわけであります。そもそもこの二つの問題がリンクしているのだという話はおそらく今，初めて聞かれた方が多いのではないかと思います。でもこれは冷静に考えてみればすぐわかることなのに誰も言っていない。なぜでしょう。

実は世の中でたくさん言われていることが，ほんとのことを示しているとは限らないからです。そして教育内容についてもそうなのであります。国際化の時代，現在，中学校では何カ国を教えているか。私は教育再生会議の第１回目に，私の息子がこの春まで中学に通っていました，その時，使っていた地理の教科書を直接，安倍総理に見てもらおうと持っていきました。

みなさんにも考えてもらいましょう。教科書の中で何カ国を教えているか。ヨーロッパに絞りたいと思います。イギリス，フランス，ドイツ，イタリア，スペイン，ポルトガルといろいろあると思いますが，ヨーロッパの国々の何カ国を学習しているか。１カ国，３カ国，５カ国，７カ国。１カ国だと思われる方，３カ国だと思われる方，５カ国だと思われる方，7カ国だと思われる方。正解は１カ国であります。現在の中学校の地理にはヨーロッパ１カ国，アジア１カ国，そしてアメリカ，この３カ国を学習して中学校の世界地理は終わりであります。ところが高校では世界史がが必修です。高校で世界史の授業が成り立つような環境になっていないのであります。そして大学入試にはお荷物になり，仮に勉強しようとしても教養部がなくなっているから，それを生かす場面がない。

こういうふうに日本の教育課程というのはズタズタになっているわけです。それでも何とか子どもたちに迷惑をかけない形にしてほしいということで校長先生が自殺をしてしまう。子どもが自殺すると連日，世の中，大騒ぎですが，校長先生が話題になったのは１日だけでしたね。最後に何と言われたか。「生きてて仕事をしてほしかった」。日本国中の心ある校長先生は，あれで「ふざけるな」と思ったと思いますね，本当に。これでやる気になるはずがないですよ。私，思わず，思いましたよ。教師の命は虫けらかと。実はこの姿をじっと，今，教員になろうかという若者たちが見ているわけですよ。そういう意識がまるきりない。さらに昨年３月，「イラン，イラクの国を知らない子どもたちが高校生，大学生の半分もいる」ということが大問題になりました。「これこそ学力低下の象徴だ」と言われたわけでありますけど，大変な間違いであります。イラン，イラクの国をほとんどの若者たちは学習していない。学習していないのに半分も知っているというからずいぶんお利口さんだという話なんですよね。バカは誰だ。それを知らずに報道しているのはお前たちだとテレビに噛みついてたんだすけど。誰も聞いてませんが。しかしこれが実態であります。

教育基本法の問題で国会も揺れ動いていますけど，国を愛するためには国のことを知っていなければいけない。国のことを知るという意味で都道府県名の学習は必須と思いますけど，都道府県名，今の若者たち，いつ学習するかご存じでしょうか。小学校では一切やりません。中学校では３県しかやりません。高校へ行くと地理は必修ではないのでやりません。やらないんです。その結果，どういうことが起きているか。昨年，関西のいくつかの大学で教員志望の学生たちに話をしました。講演だったり，集中講義だったり。冒頭で同じ質問をしました。「あのね，君たち，富士山の位置わからない人いるかな。正直に手を挙げてくれる？」。今の若者たち正直ですね。国立２割，私立の大学に至っては，なんと６割が手を挙げたんですよ。そんな彼らは，夏に私の話を聴きに来る熱心な若者たちですから，そこにいた彼らはほぼ全員，間違いなく教師になると思いますね。ということは皆さんの近くにある学校に来年から富士山の位置がわからない先生がやってくるというね（笑い），なんかゾクゾクしてくるような事態が起きてくるわけであります。それは教務主任の先生，研究主任の先生ね，鍛えがいの若い人たちが来ますから待っていてください。

こういう話を実は安倍総理にも申し上げました。政策のプライオリティの１番に掲げられた教育再生会議で，中学校でどのような学習をするかということも全然，共通認識されていない。これが実態でありまます。総理に限らず，国会に行っても皆，知りませんでした。国会議員も文教常任委員会に行った時，皆，エッと驚いていましたから。この話をした時，朝日新聞，読売新聞，テレビ朝日，TBS から皆に話をしましたけど，知っている人は，お見事，誰もいませんでした。０でした。見事。さらに中学校に行って「ねぇねぇ，世界地理，これだけ教えてないと大変ですよね」「うんうん」と言って，このことを知っていた人，手を挙げてもらうと，なんとそれを知っていたのは中学校でたった一人ですよ。誰かわかるでしょ？　地理の先生。つまり誰も知らないという。校長も知らんというね，ほんとに。日本の教育の政策のプライオリティの１番は教育かという，笑わせるなというんですよね，ほんとに。

実はこれが実態であります。これほど教育は議論され，百家争鳴の状態でありながら，法律まで変えて愛国心を何とかしなければいけないと言っていながら，これが現実であります。基本的な認識もないところで議論したところで対策が間違うのはあたりまえの話ですね。ですから再生会議の冒頭で「実態に則した議論をお願いします」ということう申し上げたんですが，さてどうなっていくでしょうか。

英語学習においても「小学校英語，賛成か反対か，いや国語が大事だ」という話があります。昨年秋，北京の小学校に行って，北京の英語学習について見てきました。大変驚いたんですが，中国人の先生が子どもたちに英語を教えていて，べらべら英語でやりとりしているんですよ。びっくりしました。現在，日本の中学校では必須英単語が100，そして900の単語をもって教科書をつくるべしとなっています。なんでこんなに少なくなったか。そそそも中学校から大学まで英語をずっと勉強しているのにしゃべれないのは受験勉強のような英語学習ばかりしているからだと言われたからです。だからそういう内容になったんですが，北京の小学校で絶対覚えなければならない必須英単語は1000です。日本の中学校３年生レベルを，中国の小学校レベルははるかに凌駕してしまってい

るということです。大変驚きましたけど，私の横でもっと驚いている人もいたんです。それは誰か。中国人の30代のガイドですよ。つまり国内の人も驚くような，それほどドラスティックな改革が行われているというのが実態であります。韓国，台湾，中国，東南アジアの国々がほとんど小学校の段階から英語をやっています。つまり英語というのは英米の言語ではなくアジアの共通言語になろうとしています。私が小学校でも英語学習をしたらどうかと言っている理由はそこにあります。来年，再来年とか東アジア青年会議とか仮にあったとすると，その会議の中でアジアの若者たちは直接英語でやりとりするわけですよ。その会話の中に日本人は入っていけないということになるわけですよね。ところがもう一カ国，話題に入っていけない若者がいるんです。つまり英語の苦手なもう一カ国のアジアの国。どこか。これが北朝鮮。へんなところが仲がいいというね。しかし北朝鮮と日本の若者たち，お互い，慰めあう言葉もないという哀れの二重奏。これがほぼ間違いのない未来の姿なんですよね。もう少し実態に則した議論になっていいんじゃないでしょうか。

さらにTOEFLの試験を見ますと日本の子どもたちの点は上がってきているらしいですが，他のアジアの国々も上がっているもので順位的にはビリとか，ビリから二番ということのようですが，問題なのはTOEFLの試験の中で日本の若者たちが最も弱い分野はどこか。実は会話ではないそうです。なんと読解だそうです。PISAの学力調査，国際学力調査の結果でも日本の若者たちの読解力不足は一つ象徴的な問題として起きてきています。学力低下で学力順位が下がったと言われていますが，実は一番大きなのは読解，日本の受験のような読解ではなく，自分自身の考え方をまとめたり，まとまった考え方をきちっと受け取ったりする，言語能力の本体みたいなものです。そこのところが日本の若者たちは弱いとなっているわけです。

私たちが中学生だった頃，中１で一次方程式を学習しましたが，当時は24時間の配当時間があったそうです。ところが今は「総合的学習の時間」とか選択学習が増えて24時間の一次方程式は何時間に減っているか。６時間であります。できっこありません。学校現場の先生方は指導要領を無視して現場で工夫しながら９時間，10時間の時間数を確保し，どうにか恰好をつけられるような努力をしている。実際は，恰好をつけられないみたいですけどね。これが実態だそうであります。そこのところで高校の未履修の問題で指導要領は法律の一部だから守ってもらわないと困るというようなことを言われた日には，現場は干上がってしまいますよね。実はこれほどに現場とトップとの間の乖離，情報不足，実態認識の不足が学校現場を危機的な状況にしてきているということなのであります。

最近，もうひとつ気になっていますのは教育の二極化の問題であります。教育の二極化ということでよく言われますのは，2002年の指導要領の改訂で指導要領の内容が３割削減されたので，とりわけ地方の公立高校に行っている若者たちは塾へも行くことはあまりないわけだから東大なんかいけない。ところがお金持ちの子どもは塾へ行き，塾とか中高一貫校があるような都会の子どもは東大に行きやすくなるという話があるわけです。そこでこれが東大の合格者の内訳です。それも東京大学合格者の家庭の収入別の内訳表という，えげつないデータを東大がつくったものです。これを見ますと1984年，年収950万円以下，ほとんどの東大合格者が普通の家庭から出ていた。中高一貫

校が６年間のうち５年間，普通の勉強をさせ，１年間受験勉強をさせるようなことで，当然，合格者が増えてくる。この時期，バブルの時期でもあったので高額所得者が増えたこともあって，そういう層の東大合格者が増えてくるわけです。今も一流校ブームとか言われています。しかし実は1995年を境にして逆にそういう家庭からの東大合格者は減ってきているんです。増えてきているのが，この階層。年収450万円以下の家庭です。貧しい家庭からの東大合格者が近年増えてきている。

次は東京大学合格者の出身地別の内訳です。1998年，44.6％あった東京出身の東大合格者。2002年の指導要領が入ってくると，逆に東京出身の東大合格者は29.2％に大きく減らしているんです。それ以後，増えてきていません。ということは地方の公立高校からの東大合格者が増えていることを意味しています。昨年秋，「地方の公立高校の東大合格者が来年増えると思うよ」と言いました。事実そうなりました。なんでそのようなことが起きたのか。実はもうここのところのデータを見れば，明らかに予定された事実だったんです。誰も注目していません。学習量が３割削減で中高一貫校に行っている子どもたちが多いだろうと思っているけど，全然違うんですよ。ついでにもう一つ申し上げると関東出身の東大合格者。首都圏。多い年だと80％くらい，少ない年でも60数％は首都圏からの合格者で東大は占められているんです。東京大学って全国区の大学ではなくて関東ローカルの大学だったんですね。

これも意外な錯覚に皆が陥ってしまっている一つの象徴です。ここのところをよく見ておかなければいけません。どういうことか。関東や東京は独自の教育問題を抱えているということですよ。今，教育再生会議でバウチャー制度とか学校選択制のことが話題になります。バウチャー，選択制，自分が行きたい小学校，中学校を選べるようにしましょうという結構なお話なんですが，私と京都市教育長の門川さんは勘弁してくれと言っている。なぜかと言うと小学校，中学校というのは地域に支えられて成り立っています。立命館も京都という風土を背景にして成り立っているわけです。学校と地域というものは切っても切れない関係にある。ところが東京というとこはバブルの時期から地域が完全に破壊されてしまいました。さまざまな教育問題が起きていて，それを解決するために地域を再生するのではなく，逆に，いいところで選べるようにしようという考え方が強く働くようになっているのではないでしょうか。それがいいか悪いかは別問題として，その意識はわかります。しかしその意識で日本全国を考えてもらったんじゃ，たまったものではないということです。東京の強者の論理で全国振り回さないでくれと。郵政の問題とか，国鉄の民営化の問題とも絡んでくると思うんですけれども，なんでもかんでも中央に集めてしまう仕組みはいかがなものかなという気がするんですね。グローバリズムというものは，要するにおいしいところは一番勝ちに全部集めろという発想だと思うんですよ。そういう点で典型的に出てきているのがプロ野球ですね。なんで松坂も井川もアメリカに行かないと見られないのだという話ですよ。残って見たい選手って言ったら誰なの？という。広島の黒田が広島に残っている。それはそれとして広島におった人はめちゃくちゃうれしいですよね。グローバリズムで言うとアメリカに集まっちゃうけど，日本国内のグローバリズムで言うと皆，東京に行っちゃうみたいなことではないでしょうか。関西においてはええ加減にしてくれという話ですよね。

ある雑誌が，東大，京大に入れる順の都道府県別ランキングをやっていましたね。面白かったですね。一位が奈良で，二位が京都だったでしょ。平城京と平安京ですよ。これは半分冗談，半分真面目なんですけど，平城京，平安京が，なぜ勉強に強いか。日本の昔ながらの生き方が生きながらえているからではないでしょうか。崩そうにも平城京も平安京も跡地は都市開発ができませんよね。だから京都も奈良も夜が暗い。京都新聞に書かせていただきましたけど，「暗い町の教育はいい」という。これはほんとそう思えてきました。

なぜ暗い町の子どもたちは賢いのか。そこにも学力をかんがえる鍵があります。日本全国を巻き込んだ学力低下問題。学力低下問題の出発点と言えば，お馴染みだろうと思います。1999年に発売された一冊の本。これが大問題になったわけであります。『分数ができない大学生』です。１年後に『学力が危ない』という岩波新書が出て話題になりました。学生たちの学力を問題にした西村先生，上野先生，お二人とも教育学の先生ではありません。西村先生は経済の先生，上野先生は理学部の数学科の先生です。教育学者でない人が，なぜ若者たちの学力を問題にしたか。理由は簡単。自分が教えている学生の出来が悪かったわけです。ではこのお二人はどこへお勤めかといことが重要になってまいります。これが大変馴染みの深い大学です。京都大学。学力低下しているのは京大生の話なんですよ，ほんとに。そうなってきますと，ちょっと具合が悪い。普通，塾だ，なんだと通って，最終的に一番成績のよかったものが東大とか京大とか受けているならば，彼らは勉強して学力低下しているわけです。しかも塾に行ったら１点違うと席順を変えられて，10点違ったらクラスを変えられるという徹底した競争原理の世界ですよね。そこで最終的に勝利者であるはずのところの京大生が学力低下したというのはどういうことか。このことははっきりと『分数ができない大学生』の座談会の中で西村先生がお書きになっておられます。いわゆる一般にいる学生たちの問題として定義されたのではないということを注意していただかなければなりません。

もう一つ，競争の問題で言うならば，こういうデータもあります。「50メートル走の記録」です。縦軸にタイム，横軸に年齢。赤線が20年前，緑の線が10年前。青い線が現在。13歳の時は，20年前や10年前の方が，現在の子どもたちより上になります。走るのが速い，今の子どもの方が。なぜかと言うと理由は簡単です。身体が大きい。14歳になるとタイムが上がっていきます。しかし15歳のところで現在の子どもたちはタイムが伸び悩んで，ここで逆転現象が起きる。16，17，18歳の時，10年前の子どもたちはタイムが落ちます。現在の子どもに至っては大きくタイムを落とします。その結果，19歳の時，そうは言っても10年前の子どもは追いつくんですが，現在の子どもは落ち込みがひどくて追いつくことができません。そのまま成人してしまうわけであります。15歳と18歳のある出来事が日本の若者たちの身体の成長に決定的な歪みを与えているということを，ものの見事にこのデータは示しています。15歳と18歳のタイムの落ち込む理由はなんでしょうか。日本人ならすぐわかりますね。受験です。これでも「競争させれば日本はよくなるんだ」といえるのでしょうか。競争原理が立派に働いているところでも色々問題は起きているじゃないですか。なぜ競争原理というものを盲目的に信頼してしまうのか，その精神構造の方を我々は研究した方がいいかもしれない。

じゃ，子どもたちは勉強に追いまくられているのか。それがまた話がややこしい。と言いますのは国際比較の結果日本の子どもの成績の順位は下がったということですよね。ところが，これは同時に調べた中学生の家庭学習の時間とテレビ・ビデオを見る時間の比較表です。赤い部分が家庭学習の時間。日本が何位にいるか探してみてください。すぐわかります。そう，最下位なんですよ。ビリ。世界で最も家庭学習の短い子どもたち，それは日本の子どもたちです。水色の線はテレビ・ビデオを見る時間。日本の子どもたちは2.7時間。2.7時間より長くテレビ・ビデオを見ている子どもたちが世界中にいるか，いません。世界で最も勉強時間が短く，世界で最もテレビを見る時間は長い。けれど落ちたとはいえ，成績はまだ中以上，ジャンルによってはまだトップグループを維持している。誰のおかげやと思ってるというね。つまり日本の学校教育は今もってきちんと機能しています。教育学を国際的に比較してみると日本の指導性は世界でもトップランクにあります。教育学の中では常識です。中教審においてもそれを前提に議論しています。私もその場に行って「日本の教師はだらしない」と怒られるかなと思って，最初，ドキドキして行ったんですが，中教審の執行部の人たちの話を聞いていると「日本の先生方，よくやってもらっているんだ」という話が出てきてびっくりしたというのが事実であります。

しかし話はややこしいですね。勉強してるのか，してないのか，賢いのか，賢くないのか，はっきりせよと。このわけのわからない矛盾したデータ，ここのところを解きあかすことが，今の日本の子どもたちを考える上でもっとも重要なわけであります。それをデータ的に見ていく時，私が気がついたのが，この二つのグラフであります。「ソフトボール投げの記録の年次推移」。もう一つは「50日以上の不登校の子どもたちの数の年次推移」であります。ソフトボール投げの記録を見ていただくと，このあたりなからなだらかに落ちてきているのがわかります。そしてもう１カ所，ストーンと落ちるところがあるのが，ご確認いただけると思います。二つ問題があった。二カ所。同じように，ある年から不登校が急速に増え始めます。一時期，小康状態を示しますが，また増え始めます。体力低下が始まった年，昭和56年です。不登校の子どもたちが急に増えだした年，これが昭和56年であります。ストーンと落ち始めた時，不登校が急に増えはじめた時，これは平成５，６，７年，ぴったり一致します。子どもたちの体力のデータと子どもたちの心の状態を表すデータが，かくも見事に一致することはどういうことでしょうか。当然のことながら昭和56年と平成５，６，７年，ここを分析すればわかる。

昭和56年，何があったか。校内暴力の嵐が日本国中に吹き荒れたわけであります。奇しくも昭和56年は私が教師になった年です。ご丁寧に兵庫県尼崎の校内暴力克服モデル地区というところに行ったわけです。非常に印象が深いんです。ある朝，新聞が届きました。その当時は新聞の一面にはどこの学校でこんなことがあった，どこの学校で子どもが荒れた。今のいじめ自殺の如く連日校内暴力の話が出ていました。その日の朝の新聞に書かれていたのは中学校３年生の社会科の授業で先生が黒板に字を書いていると生徒たちが暴れ始めた。それを注意しようと思って振り返った。するとあるものが飛んできた。さて何が飛んできたか。傘ですよ。そのまま目にぐさりと刺さったんです。恐ろしいなと思いました。「誰だ，こんなことをする子どもは」と思って，その学校を見ると，

なんと私が勤めている小学校から送っている中学校だったんです。ほんとに身の毛がよだちました。昭和56年，荒れているのは主に中学生ですから，引き算をしますと昭和40年くらいに生まれた子どもたち。高度経済成長の申し子なんです。それから主に校内暴力が激しかったところは近郊都市といわれる新興住宅地とかを抱える地域の中学校です。

ここをどう考えるか。私は専門家ではありませんので耳半分で聞いてください。田舎から高度成長の中で夢を描いた若者たちが都市部へやってきます。そしてシナリオどおり彼らにバラ色の人生が待っていたのだったら，こんなことは起きなかったでしょう。ところが昭和48年，彼らのシナリオを狂わせる大事件が起きます。それがオイルショックですね。この年を境にして今日に至るまで日本の経済の大混迷が続くわけですが，一発目はパニックそのものでした。洗剤がない，トイレットペーパーがない。あちこちを探し回ったというあの時代であります。この混乱の時，企業は夜遅くまで働く，クビ切りをすることによって生き延びようとしました。その結果，夜遅くまで働くという今に続く社会の夜型化の芽生えがここから始まってくるわけであります。これが家庭，地域の空洞化の始まりと言っていいいでしょう。この状況に対して各家庭はローンを抱えて何とか生き延びなければいきませんので，ある戦略を立てます。その戦略がまず子どもの数を少なくして，少なくなった子どもたちに，いい教育を受けさせ，いい高校，いい大学，そして潰れない企業への就職を目指すということです。

昨年1.25という出生率が発表されましたが，1.25につながる少子化はまさしく昭和48年，49年に始まっています。おまけに言うと，48，49年に生まれた子どもたちが７，８年たって学校に入学してきます。昭和56年は入学する子どもたちの数が多かった最後の年でもあります。昭和56年は戦後教育のエポックメイキングな年であったと言えるのではないかと思います。

子育てのサバイバル化が受験競争の加熱，さらに少子化を加速させていきます。公立学校はこの状態では仕事になりませんので，何とかしないといけないということで対策を打ちます。最も典型的だったのが生活指導の先生が物差しを持って校門に立ったことです。この物差しで何を計るんでしょう。こんなもの，外国人に質問したって絶対にわかりっこない。日本人は悲しいですね。わかりますからね。女の子のスカートの長さを計ったんですね。今やったら大変ですよ，セクハラでね，ほんと。そういう管理型の学校運営が，この時期から始まるわけであります。服装検査，持ち物検査，髪の毛の検査，校則と罰則によって子どもたちを締め上げていくということにならざるをえなかった。実はこれが学校を大変面白くないものにして不登校の急増につながっていったのではないか。私はそういうふうに考えています。そして硬直化した学校を今度は「画一教育はいけない，詰め込み教育はいけない」という批判が起きて，やがてゆとりというものがイメージされてくるわけであります。ゆとり教育は決してでたらめに出てきたわけではなく，冷静に考えれば，92年当時には右から左まで国民こぞってという感じで迎えられていたという面があるわけです。そのゆとり教育を批判しているマスコミ各社も10数年前の新聞を読んでみると全く逆のことを書いていたということはすぐわかることであります。

しかし時代はさらに混迷を深めていきます。経済はその後，バブルの膨脹，崩壊，そしてデフレ

というようにさまざまな形で混乱していきますが，そのたびごとに悲しいかな，日本の経済は，生き残るためにやったことというのは，夜遅くまで働くということでしかなかったのではないでしょうか。この時代背景を受けて子どもたちは二極化していきます。その流れの中で脱落していく家庭はきちんと生活が成り立っていかないということでゲームづけ，テレビづけになっていきます。そこで何とか乗り越えようという家庭は何が何でもということで勉強づけみたいなことで頑張る。

この二つの形に分化していきますが，決定的な問題がここで静かに進行してきました。音もなく進行してきたので皆，全く気づかなかったんですが，これこそが今の学力問題の真打ちだろう。それは何か。睡眠不足ですよ。学力低下の理由を，ああだ，こうだと難しい言葉を使って説明する方がいらっしゃいますけども，現場にいると答えは簡単です，寝不足ですわ。朝，授業しようとして「さあ，やるぞ」という時，目の前で生アクビされてごらんなさい，腹，たちまっせ，ほんとに。ちゃんと勉強させようかと思っても，聞いてみたら，寝ていない，食ってない。むりさせようと思うと荒れ，キレするしね。タチが悪いって，ありゃしない。

生活の変化が最も現れてくるのがテレビですね。この時期，一家に１台だったテレビが一人に１台の時代を迎えてきます。たくさんテレビが入ってきましたからね。その最も影響を受けた番組が今年もまもなく始まります。紅白歌合戦。昨年の大晦日，家族揃って紅白歌合戦を見たとうい家庭，ちょっと手を挙げてください。うわ，少ない。今までの会場の中で一番少ないですね，ここは。これを見たらNHKの人，ショック受けるでしょうね。しょうがないですよね，俺はK－１がいい，俺は猪木祭りがいい。サザンオールスターズのオールナイトコンサートだ。私はなつメロがいいということになって皆，好き放題でばらばらなものを見る。若い息子，娘には外から携帯がかかってきて「おい，遊びにいこうぜ」と晩の11時から出かけていっちゃうと。こういうのを「家族団欒」ではなく「家族散乱」というんですよね（笑い）。バラバラになっちゃってさ。こういうふうにちりぢりバラバラになっていく。

番組も深夜化していきます。その一つの基準になりますのが夜のニュース番組ですね。ここでも視聴率調査をやってみたいと思います。NHKの夜の９時のニュースを主にみられる方，多いですね。それから報道ステーション，夜，10時台のニュースを見る方，これは一番多いですね。ニュース23のような11時台のニュースを見られる方，これも結構多いですね。そんなニュースやっている時間帯には帰れない。ここはいらっしゃらないですね。よかったですね。最近は生活指導の先生なんか帰られない方がよくありますからね。しかし皆さん，お気づきになりましたか。30年前の夜のニュースと言えば，これに決まっているという定番，あえて外しました。何かわかりますよね。７時のNHKニュースであります。７時のNHKニュースを見られる方，手を挙げてください。少なあ。そうですよね。30年前，夜のニュースと言えばNHKの７時のニュースと決まっていたでしょう。「夜の７時のニュースを見てお父さんと一緒に話をしてきてください」なあんて，宿題が出たこともありましたよね。しかし今はそんなものは完全な昔話であります。昭和57年，テレビゲームの発売，レンタルビデオの普及，コンビニの拡大，こういうことが相まって，社会全体が夜型化し，家庭の風景が変わってまいりました。「母さんが夜なべをして手袋編んでくれた」ってね，ほんと。

今，11時より早く寝られるお母さんって，いらっしゃるんでしょうかね。皆さん，毎晩夜なべ仕事をなさっている。こういうことじゃないでしょうか。でも大丈夫ですよ，手袋はね，編まなくても24時間，コンビニに売ってますからね。編まなくてもよいですよ。これくらいに大きく変わってしまったわけであります。

しかしこの時代の変化に対応できず，シーラカンスか化石かという具合に時代に取り残されるような変わらないものがあります。それは何か。学校。今もって８時20分始まりの４時，5時終わりじゃないですか。そうでしょう。夜型化の社会に対応してフレックスタイム制で朝11時始まりでさ，夜７時終わりの学校があったら気持ち悪いよね。実は学校というのは変わらない，変わらないと言われていますが，変わらないからよかったという面も多々あったと思います。しかし基本的な流れは変わりなく進んでまいりました。そしてさらなる公立学校の急速な荒れは進んでいきます。昭和56年の暴力的なものとは違って，とにかくガチャガチャして落ちつかない。そういうタイプの荒れです。当時，新しい荒れと言われましたが，克服されることがないまま，今もバージョンアップしてきました。学級全体がそういう状況になること，これを「学級崩壊」と言います。低年齢化して小学校１年生から荒れてしまう。これを「小１プロブレム」と呼びます。私からみるとすべて生活習慣の崩れが問題ではないのかと見ています。しかしこのようなバージョンアップしてしまった理由，また克服できなかった理由，それはある一つの事件がきっかけであったと思っています。つまりそれまではそうは言っても，管理的な手法で押さえ込んでいたんですが，ある日，ある事件をきっかけにして一気にそれが崩壊してしまうんです，ものの見事に，一撃で。それが1990年に起きました高塚高校事件。校門圧死事件といった方が皆様には思い出しやすいかもしれません。当時，神戸の高塚高校では２割くらいの高校生が遅刻してきていました。登校時間の終わりには鉄の門扉を閉めることをやっていたわけですが，たまたまその日だけ，遅刻した女子生徒が無理にそこをすり抜けようとしたために鉄の門扉に挟まれ命を落としたという事件であります。しかしあれほどに画一的な管理教育の限界を見せ，いかにそれが虚しいものであるかを教えた事件はなかったと思います。当時私は兵庫県山口小学校にいて，こんなことを思いました。「もし高塚高校に自分が勤めていたら，鉄の門扉を押したのはおそらく私だろう」と。大体，どこの学校でも学生時代思い出していただければ，ダサくて，生徒から嫌われもので，モチャーッとした男の先生，大体，学校に一人くらいいたでしょう，嫌われ者の先生が。実はああいう先生は生徒に嫌われ役を買って出て，お父さん役とでも言うんでしょうか。学生たち，生徒たちの怖いものとなって，最後の防波堤のような形で生活指導を担っていたわけですが，余りにもこれは役回りだとしても損だということになってしまったわけですね。以後，こういうタイプの教師が減ってきます。

このことが実は新しい学力観を生んできたと思います。非常にこれはへんでした。「教師指導の知育偏重の時代から，これからの時代は個性尊重の新しい学力観だ」と。皆さんにお伺いしますけど，小学校の頃，鬼のように学習させられた，勉強させられたという学校に通っていた，そういう学校を知っているという方，手を挙げてください。少なあ，もうちょっと手を挙げてほしいな，京都はね。その代わりに「掃除はちゃんとしましょう」「挨拶をきちとしましょう」「友だちと仲良く

しましょう」。こういうことをしつこく言われた学校という方。ほら，そうでしょ。ありがとうございます。つまり日本の教育はよくも悪くも徳育偏重の国です。心の教育が最も重点的になされている国です。戦後教育の中で各学校の教育目標を掲げていますが，ほとんどの学校がおそらく「自主的に学ぶ」ということを書いていたはずです。この時期に特別に個性尊重ということではなくても，ずっと前からやっていた。ところが，それは古い学力観だと言われて否定され，新しい学力観の形が入ってきた。それはどういうことを意味していたか。「無理させるな。がんばらんで，ええよ」というのが，この時代の変化だったわけであります。

さらに「管理教育の排除」ということで言われて，子どもたちの生活の象徴であるような朝の食事の状態，睡眠の状態，これを調べることも「プーライバシーの侵害だ」と（笑い）。私はずいぶんいたぶられましたよ。調べただけでね，ほんとに。どこの家が何時に寝ていようが，個別に調べているんじゃないですよ。何時に寝たのが何人くらいいるか調べただけでね，プライバシーの侵害だとか言われて，ずいぶん痛い目にあいましたけどね。根に持ってるんです，ほんと。さらに社会も錯覚するわけですよ。「昔は，ゆとりがあった」と言うわけですよ。ウソつけという。僕らより年上の人は月曜から金曜まで６時間授業，土曜日も４時間授業であったでしょう。ですから昔の方が，ゆとりはなかったんですよ。「いや，家に帰ったら遊べる？」。遊べんでしょ。風呂焚きが待っとったじゃないですか。そうでしょ。薪で毎日炊かされましたよ，ほんとに。今の子ども，お風呂当番。「うん，やる」。ピッ，終わり（笑い）。ほんとに腹が立つね。土日は田んぼ仕事が待ってまんがな。全然，ゆとりないんですわ。

なのに，昔の人はゆとりがあると感じ，今の若者たちはなぜゆとりがないと感じるのか。これは文部科学省が秋にちゃんと答えを出してくれるんです。何か。体育の日に「全世代別体力測定」をやるんですよ。そうするとここ数年，全く結果は一緒，中高年，史上最高の体力更新（笑い）。うざいくらいに元気なんだ。若者たち，史上最低の体力を更新。「あのじいちゃん，ばあちゃんの年金を払うのか」と下向いて歩いている。わけがわかんないですよね。これが最も象徴的に出るのが高速道路のサービスエリアと道の駅です。最近，皆さん，見かけられません？　ハーレーダヴィットソンとかホンダ1000cc のバイクがずらっと並ぶの。あれは，ですよ，ついこの間までだったら暴走族ですよ。そうでしょ。ヘルメットカポッととったらリーゼントのお兄チャンがイェーイみたいな感じで出てくるわけじゃないですか。今，ヘルメットをカポッととってごらんなさいよ。大変ですよ，薄かったり，禿げてたり，ほんとに。元気なんですよ。いつからハーレーダヴィットソンが，ですよ，若者の抵抗の象徴から中高年のおもちゃに成り下がったんじゃと。乗れない私が僻んでいるわけですけど。全然そこのところが違うんですよね。子どもたちは元気がない。

この間，ある東京のケースワーカーの方に「暴走族だった若者たちどこにいんたんでしょうね」と聞くと「いや，彼らね，あまりにも学力がなくなって漢字が読めなくなって免許がとれなくなったのよ」。なんか勘弁して頂戴みたいなね。そんなにひどいのかと思ったら，私も京都で体験しましたよ。教育再生会議のメンバーが発表されたのが月曜日で，火曜日に，京都市内のコンビニに新聞を買いにいったんです。パッパッと４，５つとってレジで買おうとしたら，そこの兄ちゃんがモ

ッチャラ，ネッチャラしてレジを打ってくれないんですよ。何とかポツリポツリして２つ新聞を打ったところで３つ目は打てなくなった。「早う，してぇな」と彼に言うと，恐ろしいことを彼は私に聞いたんですよ。なんて聞いたと思います？　「すみません，この新聞，なんて読むんですか？」「産経くらい読めよな，お前な」みたいな。産経新聞が読めない。ついこの間まで「新聞，読まない学生」と聞いていたけど「新聞の題字まで読めなくなったのかよ」と思って「産経だよ」と言うと「これは何ですか？」「読売くらい，読めや」みたいなね，ほんとに。これが冗談みたいな，ほんとの話ですけど。３日後に行きましたけど，彼はその店に姿を現しませんでした。そらそうでしょうね。実はこれくらいのことが起きているわけであります。

ところがインターネット，携帯電話というように子どもたちの生活がさらに夜型化することに事欠かない。そして人間関係ですらもディスプレーに依存するようになってきたのであります。１日２時間テレビを見せますと，365×２で730時間になります。ところが今の小学校の全教育課程は国語，算数，理科，社会，音楽，体育，図工，特活，総合的学習までひっくるめて708時間。国・社・理，３つだけでは390時間です。つまり１日２時間テレビを見せるということは「日本テレビ学院小学校通信教育部」に通わしてるんだ（笑い）。心の教育，向こうにいってくれという話なんですね。そこらへんが全然理解されていないわけであります。

いかに生活習慣が学力に影響を与えるか。データで見ていきましょう。この表は広島県小学校５年生27,000人を対象にした「学力と睡眠との相関関係」をとったものであります。睡眠時間が４時間程度。そんな小学校５年生，「ちょっと職員室にこんかい」という話ですけどね。平均点50点くらいしかとれない。それが５時間になると62，64。６時間になると66，70。７時間になると70，74というように睡眠時間が増えれば成績上がっていくんですよ。そして７時間～９時間だと70点くらいで安定してきます。ただしそれ以上寝ると落ちてくるというね，寝過ぎもよくねぇぞというようなことになってくるわけです。７～９時間寝ないといけない。実は７～９時間の睡眠というのは子どものみならず，大人もひっくるめて精神を安定させるのに最も好ましい時間ということが最近言われていますね。こういうところに勉強の問題と心の問題とリンクしている。両方とも脳味噌がやっているわけですからあたりまえの話なんです。我々の学生時代に皆さんの近くにいたと思いますが，ものすごく成績がいいくせに定期テストの前になると，よく寝ていたという嫌な奴。大体，学級に一人，二人いたでしょ。僕らは「彼らが賢いから，寝られていいな」と思っていた。実は逆だった。「彼らは寝てたから，頭がよかった」んですね（笑い）。もっと早く知っていれば。残念。

もう一つ「寝た時刻と学力との相関関係」。９時に寝る子，10時に寝る子，11時に寝る子，12時に寝る子。一目瞭然ですね。９時までに寝る子の成績が一番いいんです。それ以降，寝るのが遅くなる子につれて成績が落ちてくるんです。９時までに寝るのが一番いいんですよ。昔，「８時だよ，全員集合」といわれる俗悪番組がありましたけれど，あの最後，ババンババンバンバン，加藤ちゃんが「歯磨いて寝ろよ」と９時に寝たじゃないですか。あれ，教育番組だったんです，ほんとに（笑い）。就寝時刻と知能指数を見ても９時までに寝ることはいいんですね。ただしそれよりも早く寝ると悪いというね，勉強してから寝ましょうということになってくるわけであります。そうなる

と，いかに帰ってからの生活習慣をきちんとしつけることが重要かということが見えてきますね。タイムマネジメントという，家庭の中に流れている時間をいかにコントロールするかといことが子どもたちの学力面，生活面をひっくるめて決定的に重要だということになってきます。

もう一つのポイントは食事ですね。「１食あたりの摂取食品数と学習成績の５教科テスト平均数値」。長い名前なんですけど，１回の食事に使われている食材の数と成績と相関関係。よう，こんなデータとったと思いますけど。プライバシーの尊重の精神，微塵もないデータですわね。ただ結果が，えげつないですね。食事が貧しいと成績が貧しい。いろんなものを食べさせると成績が上がっていく。しかも正比例状態になるというね。恐ろしいですね，ほんとに。ここにいたって東大生，京大生の学力低下，見えてきませんでしょうか。無理して塾通いして睡眠時間を削る。食生活を崩していく。これらは脳そのものを消耗させていくことではなかったんでしょうか。さらに恐ろしいのは，これは脳そのものを消耗させますので，そう簡単に元に戻ってこない。つまり片道特急券ですよ。勉強方法が間違っているなら直したらいいんだけど，小さい時から大学に至るまで，むりな勉強をして，無茶な生活習慣をしてしまうと脳がきちんと機能しなくなってしまう。バカへいく片道特急券，恐ろしいですね。帰ってこれないというね。そういうことを考えると生活習慣の問題は重要じゃないでしょうか。

先日，渋谷の町で夜12時頃，恐ろしいものを見ましたよ。深夜の12時，渋谷を歩くベビーカーを押したお母さん。びっくりしましたね。今から何年か前に小学生の子連れのファミレスの親子を見てドキッとしたことがありましたけど，今や日常風景ですよね。カラオケに行っても，飲み屋に行っても最近，小学生がいますからね。おそらく深夜のベビーカーがどこでも見られるようになったら，この国は終わるなということを，ほんと真面目に思ったりします。

とりわけ重要なのは朝食であります。毎日食べるから時々食べるで，これだけ成績が落ちます。毎日食べないと，ここまで落ちます。知能指数で言うと90くらい。子どもたちが成長するには，きちんと栄養を与えないといけない。あたりまえのことだろうと思います。ある町の校長先生が「朝ご飯をきちんと食べさせて登校させてくださいね」とPTAでご挨拶をされると，すかさず手が挙がって「朝ご飯を食べさせられない家庭はどうするんですか」と詰め寄られたらしいんです。「陰山先生，私，引いちゃったのよ」「引くなよ」と。だって「朝ご飯たべさせない家庭はどうするんですか」と聞かれたら，簡単ですやん。「朝ご飯たべさせられない家庭は朝ご飯を食べさせるように努力する。以上」。そうでしょ，それ以外に何もないですよ。朝ご飯食べさせないような子育て，それは虐待と言うんです。ただ昔からそういう苦しい家庭というのはあったんです。でもそれは「先生，どないしたらええやろ」と個別相談の案件だったんですよ。堂々と皆の前で居直る話ではないんですよ。そうでしょう。30年前，「朝ご飯を食べさせられない家庭はどうするんですか」と言ったら「私はバカな親でございます」と言うようなものじゃないですか。そうでしょう。時代を彩る価値観が狂ってきちゃっている。優先順位がおかしいんですよ。だから朝ご飯を食べる国民運動を文部科学省がやる。エッ，そんな，家の中のことまで役人が首，突っ込むのか。確かにそうなんだけど，しかしこのことによって「朝ご飯を食べることが標準なんです」ということに戻す効果が得

られるわけなんですね。そういう点では重要だろうと思っているわけであります。

体力との関係，学力テストとの関係，わかってきました。そしてもう一つ，決定的なのが，長時間のディスプレー依存がどういうことになるか。私は１日２時間以上テレビを見せていると子どもの成績が落ちてくるのを学級担任をやっていた時代に感じていました。ある町にデータをとってもらったんですけど，まあ見事ですね。１時間，２時間，３時間，４時間，５時間と「テレビの視聴と成績の相関関係」ですが，特に算数を見てください。２時間までだと，そんなに影響はないんだけども，３，４時間，５時間となると見事に落ちてきますね。知能指数レベルで見ていくとはっきりします。テレビを見たらアホになるという，わかりやすい話ですよ。これくらいキツイ言葉で言っておかないとなかなか通じませんのでね。この中でテレビ局の関係者がいたらごめんなさいね。別にテレビの放映権を邪魔しようという気持ちはさらさらありません。ちゃんと９時以降，テレビを見せないようにしますけども，それより遅くみたいテレビは録画をして明け方，午前５時から見ていいと言いますのでね。「見たけりゃ，朝５時，見てみんかい」という話でね。早起きもできるしいね。朝日を浴びながら下らん番組見てみろということですね。

この生活習慣の問題と子どもたちの学力の問題。ところが学力の問題をゆとり教育と関連づけられ，「５日制を６日制に戻したらいいんだ，授業時間を増やしたらいいんだ，先生がもっともっときっちり指導したらいいんだ」と言っていますけど，実はこういうことがきちんと分析されないまま，突っ走っていいんでしょうか。私はそういう点から言っても教育再生会議の場で，なんで私が呼ばれたのかなと，うれしいやら，大丈夫なんかなと思ったりしているんですけど。きちんと事実に立脚したエビデンス，証明する，実証に基づいた対策を立てないと，いかなる改革も反対方向に向かって走ることになるのではないか。

もう一つ付け加えるとするならば，結局，これがすべてなんですよ。教育というのはね，偉い人が考えていますけど，最終的にはお父さん，お母さん，学校の先生が，その子どもに何を言い，何をさせるかがすべてなんです。どこかの偉いさんが，こういう教育改革をやりましたといって文部科学大臣が家に来て指導してくれるわけじゃないんですよ。そうでしょ。つまり私たち自身がきちんと何が必要かを理解することが最も重要であり，改革の本体はこれなんです。教育の再生とは，私たちの生活の再生以外の何ものでもないということを実は意味しているわけです。教育再生会議とか中教審とかはそれをやりやすいようにするための枠組みをつくることにほかなりません。

そういう面で言うと，今，日本の教育というのは「依存と競争」ですよ。どこかの有名大学に入りたい。どこかの潰れない企業に入りたい。依存です。そこに入るためには隣の人を押し退けてでも入らなきゃいけない。依存の競争という非常に相入れないものが混ざり合って動いています。それに対して私たちがやらなきゃいけないのは，まず「教育って何のため？」。決まってまんがな。自分の飯を食うためですよ。自立のためです。まずきちんと自分が食べられたら，それで家族を，地域と協力しあって社会をつくっていく。あたりまえの話じゃないですか。理屈が多くなりすぎて「勉強は何のためにするのか，子どもに聞かれたらどう答えるか」。決まってまんがな。「大人は仕事，子どもは勉強」と昔から決まっている。それ以上，何の説明がいるんですか。ちょっと皆，く

そ真面目すぎ。そういう点でサラッと，子どもたちはきちっと勉強させる。そして親は親として，それを支える。そういうことでいいのかなと思います。基調講演はこれで終わります。ありがとうございました。

景井　ありがとうございました。昭和56年という数字が印象的に語られていましたけど，私は昭和56年当時，高校生でした。朝御飯を食べさせないのは虐待と言うんだというお話は私も印象的に聞いていたんですけど，この間，日本社会も変わったんだなと思います。家に帰ると風呂焚きが待っているという話がありましたが，私の家も古い家で，私も風呂焚きをやっていました。やっているうちに風呂焚き名人になってしまいまして，火を扱うことに関しては大体こなせるように，今でも身体が覚えております。

この機会に陰山先生にこういうことを聞いてみたい，確認したいという方がいらっしゃると思います。会場から質問を受けたいと思います。

質問　団塊の世代ですが，学校における新聞教育の位置づけ，NIE とかいう。それはどんなふうに考えられますか。新聞を学校教育の現場に持ち込んで新聞を通じて社会の実態，言葉，文字の定義，言語能力にも通じると思いますが。そういうことはされているところもあるようですが，全国的に文部科学省として位置づけられることはないのでしょうか。

陰山　指導要領の中で，それぞれの学校なり教師の判断によっていろんな教材を選択することができるわけです。適宜，いいなと思ったら新聞を使うことは認められている。ただ必須ではない。それぞれの学校や先生の判断によって使ってもらってもいい，それ以上でも以下でもありません。

質問　義務教育は輪切り的なものはやめた方がいいと思うんです。学校の価値は認めますが，義務教育制度は年齢によって決めていますが，そういうのはやめた方がいいという考えです。学力というのは社会に出てからどう生きていくかということのためのもので，社会に出て問題解決能力を身につけるのが学校教育だと思うんです。それに適したものは新聞だと思います。３紙くらい読んでいますが，複眼的な見方も必要だと思います。英語教育は1970年代，海外に出てドルが360円でした。現場で英語能力は鍛えられました。ベースとして文法としての英語力はつけていましたから。カンバセーションはボディランゲーッジをしていけば完全に身につくわけですよ。耳からの英語も必要ですが，グラマーも必要だという考えです。それを小学校からやるのはちょっと問題だと思います。

陰山　お考えはよくわかります。

質問　仕事で毎日，お母さんに接している仕事をしております。データはありませんが，身体で

感じたことで，お話を聴いて，私が言ってきたことは間違ってなかったなと確信を得たんです。学校の先生にお願いしたいのは，PTA に対して食育とか生活リズムを学校の先生が言うのもおかしいと思うんですが，学校の先生として，もっと主張したらいいと思うんです。どっちかというと先生は保護者を怖がっています。「学校の先生が言ってくれたらいいんだけど」と前置きして言うんですが，お母さんたちに教える社会がない，今は。今，53歳ですけど，やっと子育てが終わりましたので，これから自分で資金も稼いで自分なりの活動をしていこうと勉強しているんですが。

陰山　おっしゃる通りだろうと思います。これがね，学校扱いになるのもおかしいんだけど，食生活とか，かなりそれぞれの発達段階に応じて教えていかないといけない。その点では立命館大学もライフスキル，ライフリテラシーのような必須教科をつくって，きちんとした生活習慣をつくるということを大学時代に学習して実社会に出ていくことも必要ではないかと思っています。30代の鬱病が増えていて，気がつくと昭和56年くらいに小学生だった子どもたちが，今，その年代に入ってきている。子どもの頃から夜更かしをする人たちが30代になってきて鬱病になりやすいという傾向を持っています。因果関係ははっきりしませんけど，今は生活習慣の問題をきちんと考える，最もいい段階だろうなと思っています。

夜，渋谷をベビーカーで歩いているお母さん方に，誰が言うのがいいか。これはキムタクだと思っているんです（笑い）。笑うけど，ほんとにね。『元気』という講談社の保育雑誌に「早起き，朝ご飯」のことを書いたんですよ。僕は小学校教師なんで保育のところに行きたくなかったんです。編集者に説得されて一回だけやりますと言って。非常に大反響だった。読者ハガキが返ってきたら「陰山先生の記事を読んで，子どもたちは夜になると寝かせないといけないということを初めて知りました」と書いてある。全然知らないんですよ。子どもって言うのは，ほっておくと，生活習慣が，まだ未熟ですから，夜型化していくんですよ。寝ないんです。それを寝かせるために子守歌という家庭教育文化が育ったわけですね。これがテレビに置き変わることによって，ものの見事に崩れていった。ところがそのことを話をしようとしても，先生が言っても聞かない。お父さん，お母さんが言っても聞かない。近所のおじちゃん，おばちゃんが言っても聞かない。誰の言うことを聞くのかというと，編集者の人が，ズバリ一言，「テレビに出ている人なら聞く。だから陰山先生，お願い」と頼まれたんですよ。でもね，そんなことならキムタクになったらという話が出てくるわけで。実は真面目に考えていて，来年春くらいにちょっとキムタクはむりかもしれないけど，若者たちに人気のある人に立命館に来てもらって「オイ，子育て楽しいぜ」みたいな感じの話をしてもらうと，結構，京都の出生率が若干，上がるかなと真面目に考えています。

景井　どうもありがとうございました。

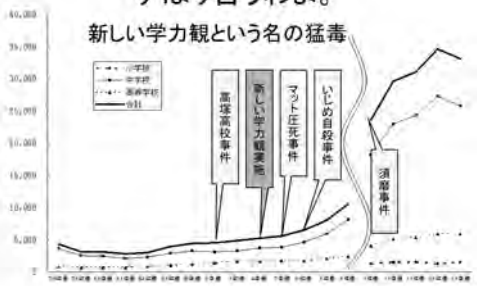
学力の新しいルール

学校よ、自信とプライドを取り戻せ

立命館大学
大学教育開発・支援センター
教授　陰山英男

ずばり言うわよ。

新しい学力観という名の猛毒



空っぽの教育論議

- 国際化の時代、中学で何カ国を教えているか。
  三カ国→イランイラクを知らない若者？
- 国境問題、都道府県の学習は、いつするか。
  しない→竹島問題、テポドンはいかに？
- 英語学習でもっとも弱い分野はどこか。
  読解→必修単語の数はどうか？
- 24時間の一次方程式の指導時間はいかに
  6時間→総合的学習の時間は成立するか。

教育の二極化の本質

最初から間違っていた学力低下の理由

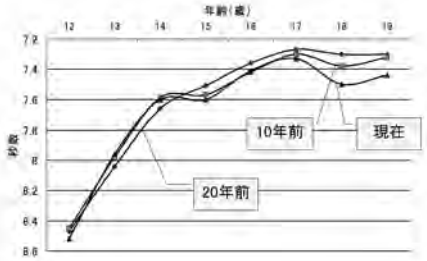
学力低下問題の原点

- 「分数ができない大学生」西村和雄教授
- 「学力があぶない」上野健爾教授
  →震源地は京都大学

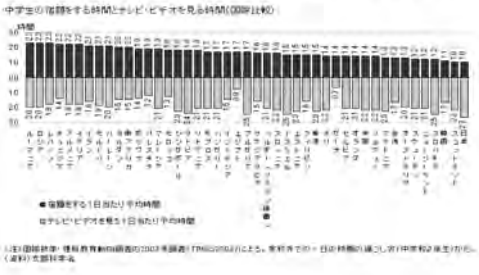
- 勉強しなくなったのではなく、勉強をして学力低下してしまった。
- 競争させれば子どもの学力は低下する。

競争原理で子どもは伸びるか？

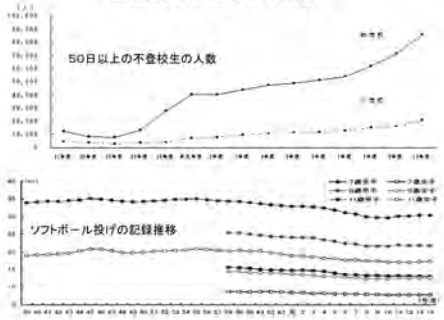
50m走比較（男子）



子どもたちは勉強に追いまくられている。



二度あった教育の危機



昭和56年、日本の教育は一度壊れた
爆発する校内暴力の嵐

- 高度経済成長の申し子ー近郊都市の基盤のない家庭
- オイルショック　　崩れたシナリオが生んだパニック

→社会の夜型化と家庭・地域の空洞化の始まり
→子育てのサバイバル化→受験競争の加熱と少子化

- 公立学校崩壊の危機(吹き荒れる校内暴力)

→管理化する学校→不登校の急増(管理教育)
↓
→画一教育批判、つめこみ批判→ゆとり概念の登場

- 流れを加速化したバブル時代→社会の二極化

→家畜化していく学ばない子どもたち
→公立学校の競争緩和が生んだ競争激化→私学神話

失われていく公立学校のプライド

- 安いテレビの増加→テレビの個別化、番組の深夜化
- 昭和57年ファミコン開始→ドラクエⅢのヒット 380万本
- レンタルビデオの普及コンビニの拡大

→空洞化する家庭　ニート化する子どもたち
↓

- さらなる公立学校の急速な荒れ(新しい荒れ)

↓(公立学校凋落の深化)

- 管理教育の破綻と学校権威の崩壊　　(高塚高校事件)

↓

- 受験競争批判を生む土壌→嫌われる基礎学習

(ゆとり教育に追い込まれる公立学校)
二極化しながら急速に進む睡眠時間の減少

麻薬を飲まされた公立学校

- 教師主導の知育偏重ー個性尊重の新しい学力観

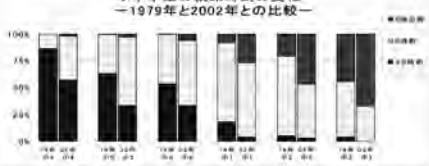
画一的な指導より個に応じた指導(努力の軽視)
知識量より意欲(基礎の軽視)
管理教育の排除ー(生活指導の軽視)
○社会の錯覚(いやな勉強、昔はゆとりがあった。)
小学校での基礎学力の習熟不足→変わらない高校入試
　→荒れる中学(学校の自殺行為)
インターネット、携帯電話→ディスプレー依存症へ
私学シェルターの危機　闇の反対にある闇

- 予定された敗北、心の教育(一日2時間のテレビ視聴)

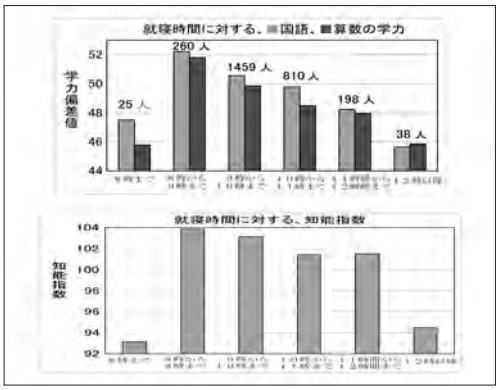
全学習時間(708時間)＜テレビ視聴時間(730時間)

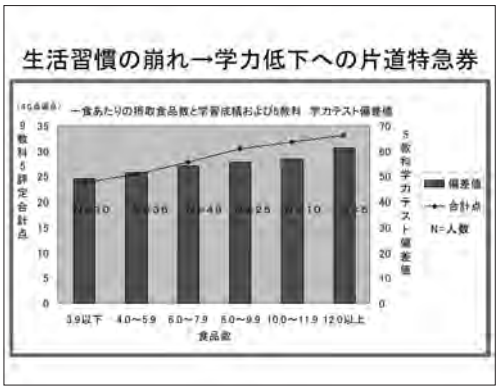
学力低下の本質は生命力の低下

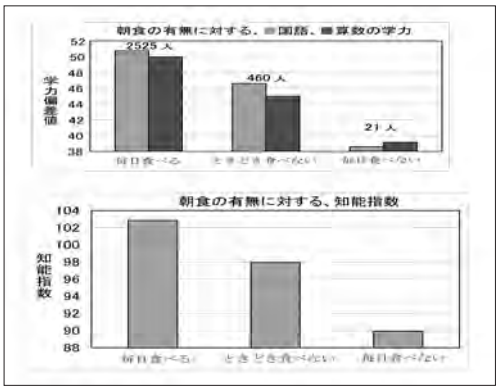
小中学生の就床時刻の変化
ー1979年と2002年との比較ー

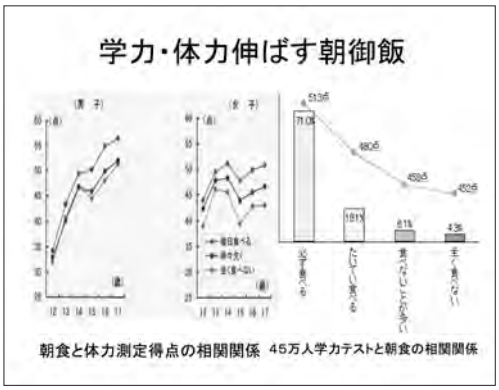


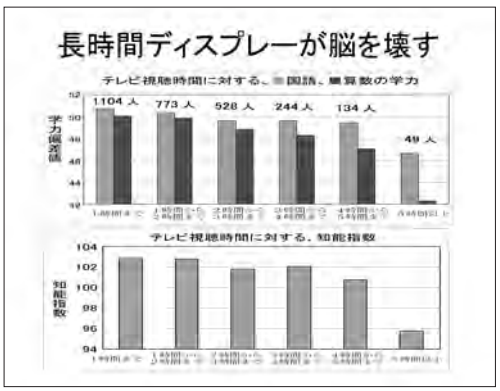
	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	以上
国語	52	62	66	70	71	70	65
算数	53	64	70	74	74	74	68











学力回復の切り札→漢字

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
2年	80.3%	27.5%					53.9%
3年	89.8%	62.4%	24.1%				58.8%
4年	93.0%	68.6%	50.3%	31.6%			60.9%
5年	95.5%	78.7%	61.6%	44.5%	36.6%		63.4%
6年	97.4%	85.9%	71.5%	55.0%	47.5%	52.1%	68.2%

土堂小学校の結果

学年	組	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
2	1	94.5%	50.7%				
2	2	96.1%	79.8%				
3	1	96.3%	85.4%	72.2%			
3	2	97.1%	86.1%	68.1%			
4	1	98.3%	94.4%	85.0%	81.0%		
4	2	98.2%	91.0%	79.6%	78.6%		
5	1	99.0%	93.1%	85.2%	77.4%	67.6%	
6	1	99.6%	95.6%	92.8%	84.4%	83.6%	71.8%

信頼回復へのモデル→土堂小学校

- 学力低下不安に対する完全なる処方箋

→漢字検定合格率　97%（全国のトップクラス）

→広島県基礎基本調査

国語87点（県平均74点）算数95点（県平均80点）

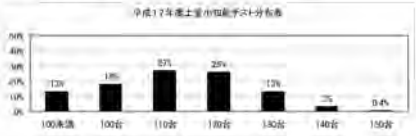
土堂小学校　標準学力検査(CDT・日本標準)実施結果

※2006年1月末実施　★3段階の評定の分布状況

A=正答率が80%以上　B=正答率が79～60%　C=正答率が59%以下

	国語			算数			総合		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C
全校(土堂)	92	7	1	87	9	4	91	7	2
全国(全国)	55	32	11	60	28	10			

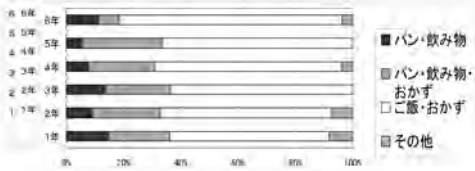
徹底反復は知能を高める



	平成16年		平成17年
IQ平均	113	⇒	115
IQ120以上	28%	⇒	42%

土堂小学校のポイント、その1

■早寝早起き朝御飯



土堂小学校のポイント、その2

■読み書き計算の徹底反復

ライフリテラシーの向上

■生活管理能力の向上(時間管理、物品管理)

夜9時には寝る。(大人は10時半)

朝食は遅刻してでも食べる。

登校の1時間前には起きる。

家族団欒とあいさつ

寝る前に整理と翌日の準備をする。

洗面、排便、音読をしてから登校。

メディアリテラシーの向上

- 多い情報が正しいとはまったく言えない。
- データを調べ、実証性を確認をする習慣を。
- 批判ではなく、グッドプラクティスに注意。
- テレビは長くて2時間、できれば1時間
- 9時以降の番組は録画で翌日見る。
- 問題行動の背景にはメディアがあることを学校や家庭で学習

こどもを幸せにする方法

- 困難は家族で助け合う
- 子どもの状況が悪いとき、励ましと共感を。
- 幸せを教える。
- まず、今自分が幸せであること。
- 今、子どもが幸せであること。

信頼回復をかけた新しい指導要領とその可能性とリスク

- 読み書き計算など基礎基本の完全なる定着
- 言語能力の向上　PISA型学力に注目
- 教える学習と学ぶ学習の融合
- 英語学習の必修化？

↓

- 生活習慣と学習習慣（早寝早起き朝御飯）
  →生きる力の基盤作り
- 学校五日制の維持と学力向上
  →授業時間を増やすことなく、学力をつける。

音読は脳を鍛える必須の方法

学習指導の基本中の基本

- 理解の絶対的必要性はない。理解できるとなおいい。
- 難しくてもリズムあるものを→習うより慣れろ
- 脳を鍛える読み方
  早くすらすら読めるようにすること。
  じっくり鑑賞する読み方
  ていねいに感情を込めて
- 暗唱は、徹底音読の結果として求める。

最初からの目的にすると、しんどい。
低学年などは、カルタや百人一首などがいい。

圧倒的な計算力が生む集中力

- 低学年では具体物を使って計算の理屈をじっくり教え
  ソロバンなど有効
  おはじきタイル、お金など、やりやすいものを
- 十まず計算で基礎的な計算力を育てる。
  この段階から個別指導をていねいに
- 百まず計算が終わると、次の問題を用意してやらせる。
  5分程度の集中を確保する。
- 同じ並びのプリントを2週間
  中学年で2分以内を目標
  同じ並びの問題を2週間に
- 高学年では、C型割り算2分以内を8割
  問題はまったく同じ問題を4週間程度またはそれ以上でも可
  圧倒的な集中力が育つ

子どもを伸ばす具体的方法

漢字＝言語力を伸ばす土台

- 漢字（来年度の小学館の教育技術に注目）

1年生は丁寧に指導
2～4年生は学期または、前後期の前倒し
5～6年生は年度の前倒し
前倒して教えるが、覚えるのは年度末まで
教え終わったとき、ご苦労さまの一言を
土堂小学校→合格率漢字検定97％
日本標準のまるごとスキルか教科書準拠
熟語プリントの学習（英単語学習と同じ）
100点の取れるような宿題
8割取れたら次へ行く。

算数力のつけかた

- 圧倒的な計算力の習得
- 文章題の式には単位をつける。
- 解きかたの説明は一文ずつ区切って箇条説明
- ノートを丁寧に書かせる。
- 定規をどんどん使う。
- 徹底反復算数プリントに裏技集
- 割合と分数計算に最大の注意を
- 算数の学習も音読が大切
- 基礎プリント作り

国語力のつけかた

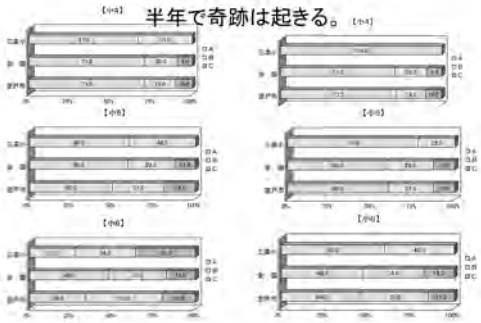
- すらすら読めるようになるまで読ませる。
- 漢字指導は徹底的に行う。
- 主語－述語、修飾－被修飾の関係をわからせる。
- 代名詞をわかるようにさせる。
- 辞書に親しませる。
- 日記などで、毎日のように文章を書かせる。
- パソコンなどを使って、文章作りになじませる。
- 土日の宿題は読書にするなど、読書量を増やす。

テストの点を上げる方法

- 1学期中にテストの良い点を取らせる。
- 模擬テストの指導（できない子はできない。）
- 問題をきちんと読ませる指導はテスト時間に
- テストはきちんとファイルして得点を記入
- テストの予告は必ず行う。
- テスト調べのやり方や重点を教えることも有効
- 成績評価は絶対評価で。
- 学級通信などで、いい成績のとき、ほめてもらえるように家庭を指導する。

決定的なのはリーダーシップ

- とにかく教師は早く帰って、教材研究。
- 会議の量はできる限り減らす。
- 計画はまとめて1年分作って渡しておく。
- 学校の見た目は、華美より、簡潔にして明瞭
- 保護者対策として、常識の確立を
- 各学級の様子やテストの平均点はチエック
- 調査物は、給料分程度に
- 各学級を応援する構えをはっきりと。

高知県室戸市三高小学校の記録

半年で奇跡は起きる。